27 高 虫 防 16 号
平成27年5月28日

各関係機関長　様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

平成27年度病害虫発生予察特殊報第１号を送付します。

平成27年度病害虫発生予察特殊報第１号

１　病名　ピーマンえそ輪点病、トマト茎えそ病（仮称）
２　病原ウイルス名　キク茎えそウイルス　Chrysanthemum stem necrosis virus（CSNV）
３　発生作物　パプリカ、トマト
４　発生経過
平成26年６月、高知県内の施設栽培パプリカほ場において、葉にえそ症状、果実に着色不良を生じる株が見られた。また、平成27年３月には施設栽培トマトほ場において、葉、茎および果実にえそ症状を呈する株が見られた。高知県農業技術センターによる遺伝子診断により、CSNVによるピーマンえそ輪点病およびトマト茎えそ病（仮称）であることが確認された。
本県では平成25年にキクでの感染が確認されているが、パプリカおよびトマトで感染が確認されたのは今回がはじめてである。平成27年５月現在、ピーマンでの特殊報は栃木県と佐賀県から、トマトでの特殊報は群馬県など７都県から報告されている。
５　病徴
ピーマンでは葉にえそ輪紋を生じることが報告されているが、パプリカでは黒枯病に酷似したえそ症状を生じる（写真１）。また、果実が着色不良となることもある（写真２）。トマトでは茎にえそ条斑を生じ（写真３）、葉や果実にもえそを生じる。（写真４、５）。
６　伝染方法
CSNVはトマト黄化えそウイルス（TSWV）やアイリス黄斑ウイルス（IYSV）と同じ*Tospovirus*属のウイルスで、主にミカンキイロアザミウマによって媒介される。ウイルスは永続伝搬され、１齢幼虫が罹病植物を加害することによって本ウイルスを獲得し、主に成虫がこれを媒介する。なお、保毒雌成虫から次世代に本ウイルスが伝搬すること（経卵伝染）はない。また、罹病株からの挿し穂等による栄養繁殖でも伝染される。種子伝染や汁液伝染（管理作業時にハサミや手指等に付着した汁液を介しての伝染）、土壌伝染はしないと考えられる。
７　感染植物
トマト、キク、ピーマン、アスター、トルコギキョウ等への感染が報告されている。
８　防除対策
（１）発病株は二次伝染源となるので、抜き取り後、土中埋設、焼却などの処分を行う。
（２）媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。本虫に対し防除効果が高い薬剤はほとんどないので、施設栽培では薬剤防除だけでなく、天敵、防虫ネット被覆等を併用することが好ましい。
（３）ほ場内および周辺の雑草はミカンキイロアザミウマの繁殖場所となるため、施設内外の除草を徹底する。

お問合せは、環境農業推進課（TEL： 088-821-4861）または病害虫防除所（TEL：088-863-1132）まで



写真1　葉のえそ症状



写真2　果実の着色不良



写真3　茎のえそ症状



写真4　葉のえそ症状



写真5　果実のえそ症状